

西部地区 歴史文化の視点2

8. 開拓ものがたり

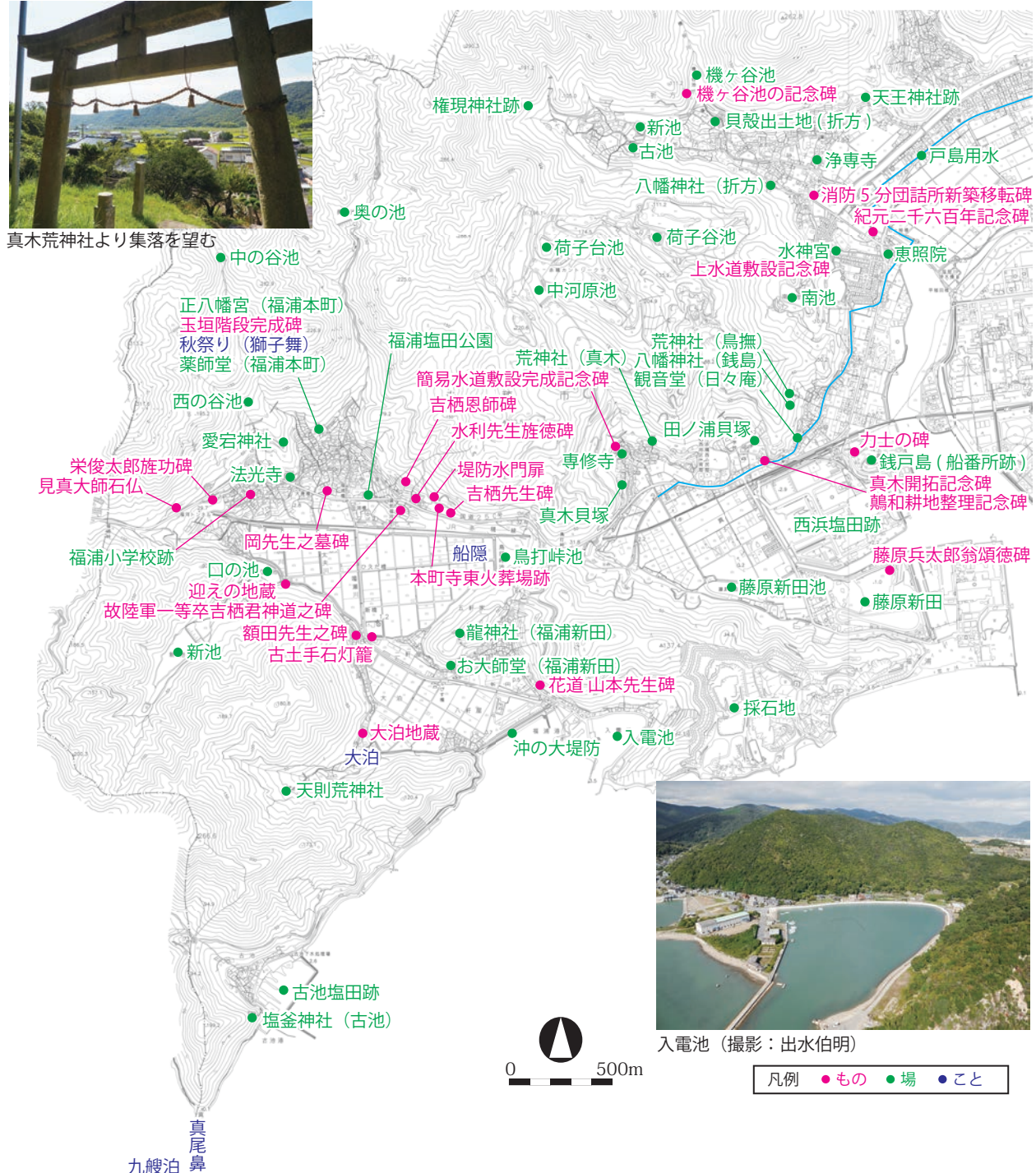
【ストーリー】

かつての西部地区は、海が山際まで入り込む平野の少ない地形であったが、中世から現代に至る干拓・開発によって、現在の景観ができあがった。福浦の干拓開始は古く天正年間に遡るとされ、寛永6（1629）年には福浦の古土手および水門が完成した。その後天和2（1682）年には福浦新田が完成、しばらくして福浦新田村が成立した。

一方、鷓和については、江戸時代に西浜塩田が干拓されたほか、大正8（1919）年に完成した藤原新田や、昭和10（1935）年に石ヶ崎まで通水した戸島用水などがある。土木事業は先人の知恵の積み重ねであり、現在見られる数多くの記念碑は、工事に携わった先人の犠牲や労力の結晶を称えたものである。



真木荒神社より集落を望む



入電池（撮影：出水伯明）